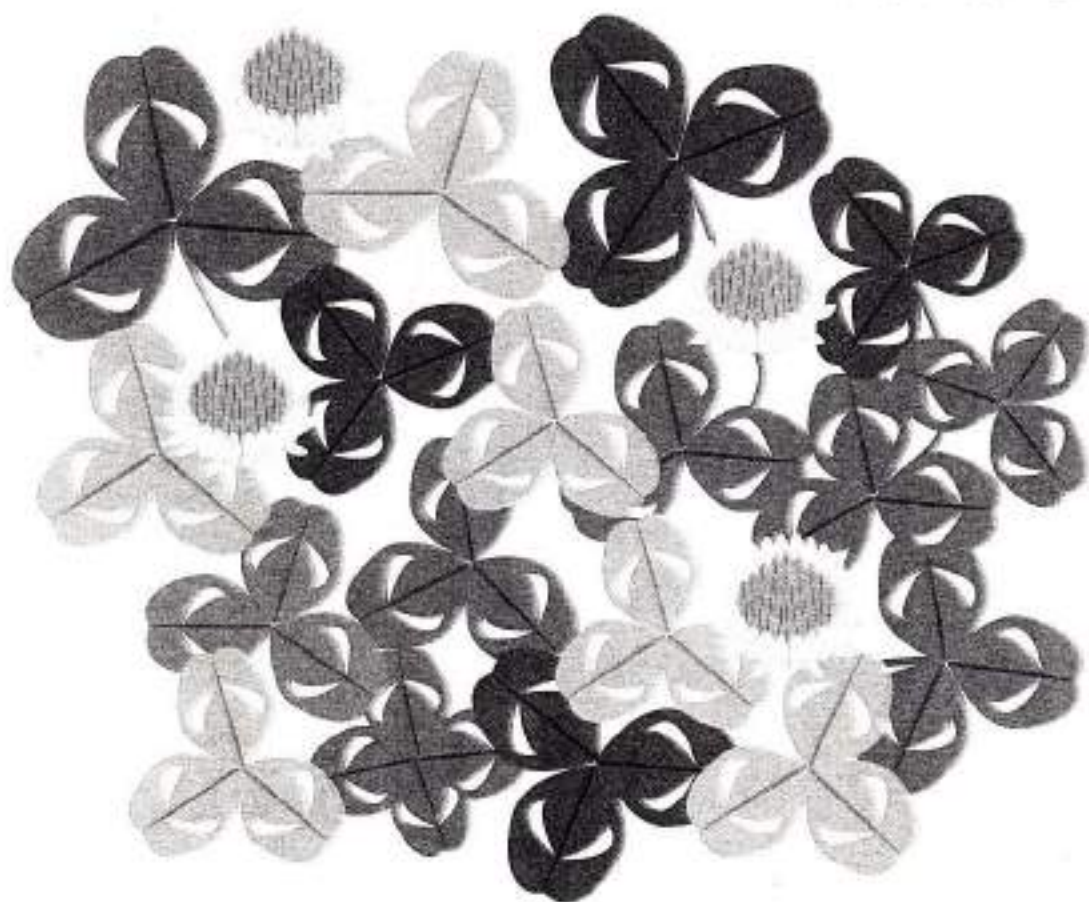


Interpreter Workshop

vol.38



府民の森パークレンジャー2009

今回の IPWS 38号は

研修を終えたばかりの17期生を中心に

ふりかえりを兼ねて感じたことを綴っていただきました

もくじ

小川 亜美
木全 富子
芝高 さなえ
下中 誠太
中島 種芳
中野 寿子
西野 絹子
能町 真実
穂坂 義人
松川 淑子
松本 修子
向井 弘治
諸留 文明
山崎 智
行平 章子
吉田 秀夫

安田 芳宏
西出 明子
武田 敏文
金崎 弘高

研修スタッフより

編集後記

「間違えた」

任命式の後の、BOSSの「ボランティアとは」との話からそう思った。
しまった、間違えた。もっと気楽なものだと思っていた。ボランティアがそんな重いものなんて思ってなかった。って
いうか、ボランティアだってことも、そんなに意識していなかった。
どうしよう。

初めての研修でも、「ダメ、無理」と思った。
じゃんけんゲームとか他己紹介とか誕生日環に並ぶとかゲームが続く。
わたしは丸い顔と大きな目で、第一印象で人当たりが良いと思われるらしく、外出すれば1日に1回は必ず道を聞
かれる。旅行先でも、聞かれることがある。
親しみやすい感じをされるみたいだけれど、実際はそんなんではなく、結構、コミュニケーションをとるのは苦手な
方なのだ。

それでも、顔見知りが出来、だんだん研修が理解(多分)でき始め楽しさを覚え、
「教えて貰ってるうちが、幸せなんだよな～」
と思いだした頃、また、新たな悩みが出て来た。
ほとんどの人が、元々、自然に触れ合うことが好きで木や草花や鳥のなんらかに詳しい。
わたしなんか、「食べられる野草」の本を読むのが好きなくらいだ。
自分では植物について知っている方…と思っていたが、足元にも及ばない。
後々、園地を選び…自分がイベントをすることになったとき、自分は何をしたいんだろう？
自分が好きなこと、興味のあることって何だろう？何を伝えたいんだろう？
なんだか、本当に自分探しのな感じにさえなってきた。

そして、仕上げイベント。なぜか日曜日班のリーダーに、一番苦手な分野だ。幸いだったのは土曜日班のリーダーが
年も近い行平さんだったことで、様々なことで意見交換できたことだ。彼女もがんばってるんだから、負けてはいけ
ない。先輩からも色々アドバイスを受け、他のメンバーも、各々の役割分担が決まれば、どんどん進んでくれる。
イベントは緊張したし、自然は生き物で思わぬ事態も発生したが、お客さんが楽しんでくれていたのが感じられ
て、嬉しかった。お客さんがこんなに楽しんでくれたなら、苦労したこと、全部プラスマイナス0、とうよりプラスだ。「あ
りがとう」なんて言葉ももらえるなんて、こちらの方が、参加してくれて「ありがとう」と思うくらいなのに。

研修は、毎回、知恵熱がでるほどに疲れたり考えたりしたけれど、今思えばあっという間で、もう少し研修を受けたい
と思う。今の気持ちでまた研修を受ければ、もっと学べると思う。
でも、甘えてはいけない…次の研修生さん達が来る。
修了書は、受け取ってしまった。

そして、園地の中で厳しいといわれる「むろいけ園地」がわたしの次のステージ。
大変そうだし、大変なんだろうけど、ぐーたらなわたしには、それくらい厳しいところの方が良いのでは…とは思
う…んですが…なにせ、薪炭林を「チンパンジー」と聞き間違え「パンちゃん」の愛称をもらってしまった猿頭のわたし
ですから。
先輩方も、覚悟して、わたしを受け入れて欲しいと思います。

最後になりましたが、17期生のみなさんと知り合えて、楽しかったです。園地は別れてしまいますが、また同期会と
かして、お話できればと思います。

また、書類など提出物について、様々なご迷惑を富田さんにはおかけしました。申し訳ありません。

ご指導くださった先輩方、ありがとうございました。今後の活動に活かしていきたいと思ひます。

一本の葉柄から

木全 富子

7月上旬初めて訪れたらくらくセンターハウスの下の狭い階段状の道一面に、その「葉」は落ちていた。細長く堅く楕の葉くらいの大きさで、しかし楕の葉ではない！と思える不揃いさと個性的な曲線...気になって1枚を拾いポケットにしおぼせた。

帰りがけ、先輩に尋ねた。すると一目見て「メラノキシロンアカシアですよ。」！！

今では言えるその長い名は1度で聞き取れない長さで、その長い名を即座に言われることに驚いたが、それ以上に即ウッドデッキの方へ案内して下さって、見せて下さったその木のたくさんの不思議に驚いた。

葉と思ったへら状の部分は葉柄で、本当の葉は所々先の方についているネムノキの様な羽状複葉だとのこと。豆科だそうだが珍しくくるっと丸まったさやで、中に種子があり、しかもその種子は風で飛べるように円盤状の羽を付けていた。

その後すっかり忘れていたメラノキシロンアカシアを、二度目に見かけたのはほしだ園地であった。別の先輩の紹介に「今は植えないようにしている木」とあったとか。仕上げイベントに選んだコースの中の、削られたのり面の下辺りに、2～3本の細く小さい苗木があった。

イベントで取りあげなかったのも皆で話し合うことはなかったが、初めて教えてもらった時の不思議が思い出され、植えない理由も知りたくて後で調べてみた。

治山回復用にS20年ころ導入されたとのこと。豆科でありながら常緑高木、成長も早く強健で15年生で15m 太さ20～30cmに達し材の利用価値もあるとか、しかしあまりに強いためにクヌギなどの混植した在来種が育たず、堅い葉柄は土に返りにくく、ニセアカシアやブラックパスのように環境問題として考え直されているそう。それでも現在も尚、農林関係機関の刊行物の中に「幼令期の生長状態・現地適応性から見て...有力樹種」の一文もあった。

らくらくセンターで見たメラノキシロンアカシアはずてきな種子のひみつを持つ立派な高木だった。おそらく原産地のオーストラリアでは別のずてきなしくみを持つ木々と競い合いながら、折り合いながら、そこにあることが当たり前前の木として、種の保存を続けていることだろう。

人の手によって持ち出され持ち込まれた時、種の営みが自然のバランスを壊すこともあることを、考えさせてくれたメラノキシロンアカシアであった。

研修を終え.

17期生 芝高 さゆえ

「えりいもんは顔(首じゃない)
つっこんじゃったん〜!？」

というのが今の心境.

応募した時は、おぼえんの暇つぶしの要素が
主たる目的.

今や土・日・祝関係ないシフトの仕事をしおぼろ
そマ? 私に何が起きるのか?

生駒山西麓の孔舎衛(くしか)に住み

ある時は屏風岩の様に立ちほだかり

ある時はもこもこ手を差し延べんばかりに

追っまくる山並に

多くの事を学んでいきたいと思ひます.

ありがとう



ごさいました

and



おねがひします

パークレンジャー研修を終えて

17期 下中 誠太

本年5月末の定年退職に向けて、昨年度に大阪府の『シルバーアドバイザー養成講座』を受講しました。専攻課程では「福祉IT活用」を専攻して、ITを活用した新しいボランティアのあり方について学び、その一環として現在も班の仲間達と大阪府ITステーションで障害者向けパソコン講座のサブ講師を務めています。また、地域別交流活動としては堺市・泉州グループの仲間達と『私達の地球温暖化対策』というテーマで府庁みどり・都市環境室などを訪れて自然保護活動の大切さを学びました。本年2月の堺臨海「共生の森」での植樹祭にグループ皆で参加し、そのフォロー活動として現在も毎月最終日曜日に草刈り・植栽樹木の成長観察などの活動と一緒にこなしています。

自然保護活動についての知識・技術をもっと深めたいと思っていた時に、地元の図書館で「府民の森パークレンジャー」募集のパンフレットを見て応募させて頂いたところ、幸運にも合格でき4月からの研修に参加させてもらうことになりました。研修に参加して驚き・戸惑ったことは年齢層の低さであった。前年のシルバーアドバイザー講座では最年少で雑用係りをしていればよかったが、任命式のあとのグループディスカッションで「年長の下中さんが纏め役をやって下さい」との指名を受け面食らってしまいました。

その後の研修ではパークレンジャーとして必要なインタープリテーションやイベント企画などについていろいろ教えて頂いたが、全般的な感想としてはあまりにも多くのことを広く浅く短期間の詰め込み過ぎであったのではと思います。(教わる方の私にもものっぴきならぬ用事で一部研修を欠席するなどの問題もあったことも否めませんが。)特に救急法や森林管理などの実技を伴うものはもっと時間を割いてゆっくりやってもらいたかったです。

ともあれ研修も終わり、これからは各園地に配属されレンジャーとして活動していくわけですが、私としてはちはや園地において「定年退職という天の時」「ちはや園地という地の利」「パークレンジャー仲間達との人の和」を活かして『自然の大切さ伝え隊』の一員として活躍出来るよう、更なるスキル・知識の向上に努めていきますので、先輩レンジャー並びに17期同期諸氏の気長で愛情あふれるご指導・ご鞭撻をよろしくお願い致します。

今から1年前の10月のことです。

環境プログラム C.C.C 富良野自然塾シニアセミナーに参加して、以前からあこがれていた倉本聰さんの富良野自然塾のフィールドに3日間を過ごしました。

彼の地球・自然を守る強い信念と情熱に心を打たれ、セミナー最後の日に倉本さんが語られたことばに、私はこれからの自分の生きて行く道をみいだしました。

北の大地の深く重々しい森という神秘的な世界に足をふみ入れ、そこに自分を置いてみて、木々のざわめきや、目には見えない生きものたちの息づかい、葉の落ちた枯枝に潜む、次世代への新芽の動き、まわりの自然に同化できるニンゲンになりたい、私は一心に願いました。

セミナー中は、どんな生き方が、それに近いかを、おと自問自答していました。

そうしているうちに、倉本聰さんの方から、私達参加者に、一つの使命が与えられました。

「南アラスカ地方の先住民族、キチア族に伝わる短かい民話に「ハチドリ一滴」という話があります。

山火事のおこった森林で、小さなハチドリが一滴ずつ水を運んで火を消そうとします。

そんな話を、山火事が消せるかと動物たちが笑います。

でもハチドリは 真剣に 云います。

「ジブンニ デキルユトハ コレクライダカラヨト。～季刊富良野自然塾～」

みなさんは、そのハチドリになて下さい。山火事に向っていくハチドリのように環境崩壊の危機を前に、まずは一滴の水を運んで下さい。ハチドリにならって……。(そうか！ハチドリになろう！)

帰りの空港までのバスの中、はたなく広がる北の大地を見つめ私は、そう決心しました。


そして、3ヶ月後に新聞でみつけた小さな募集要項が、府民の森パークレンジャーボランティア募集でした。定まった自分の思いは、一直線にその記事と線で結ばれ、一筋の光が差し始めました。そして4月から研修が始まり、たぐひの事を学びながら、一歩、一歩と大阪の森へと入っていく自分への富良野で聞いた森の精の音が、確かに心でも届いてきました。

森を大切にいくためには、森の魅力を一人でも多くの人に知ってもらい案内していく、森を遊べることも知ってほしい。子どもたちにも、とんとん森に入ってもらい、森の生命力と競いながら育ってほしい。


指導して下さいた研修スタッフのみなさま、本当に多くの感動を森の中で教えて下さり、ありがとうございます。先輩方のように上手には伝えられませんが、実習生のスキルをはずした今、次に森へ入る時には、

一滴の水をくちばりで運ぶハチドリとして、堂々と胸を張って羽ばたきたいと思います。


府民の森 パーフレンジャーの研修を終えて

 任命式では


トドパーフレンジャーという言葉にひかれてとび込んだ超々緊張、冷静……

 インタプリテーションでは


そんな言葉聞かなくていい/風た々/川た何?から始まった……

 救急法(1)(2)では


AEDとさう心肺蘇生に使用する自動体外式除細動器を使ての救命処置の実習。命を左右する行動が求められる重大事……

 里山と府民の森では


自然を満喫と思いきや、蟻の变身、周囲は感嘆の声をあげ、自然に溶け入る。自分とは云えよ、身体に出がつかぬかき内心、ピクピクして目精一杯木切れ日に感激したよ……

 イベントの企画と実施では

コナラの実から始めてコナラの実で終わった。収穫は消化不良が主、原因は長過ぎ、開心、想像の天如でした……

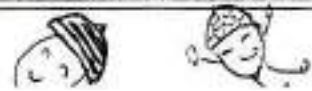
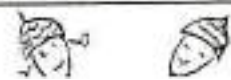
 安全管理では

クラフトで使用する工作道具類の使い方や手順、体験を通じて危険を体感、でも夢中になって注意が途切れてしまひ、カッタータイプが刃を抜いたまま……

 森林管理では

学生時代に遠くかなと思う程、自然の循環、生物のつながり、森林の生態について学ぶ。又森林作業も体験し様々な感情をいただく……

あつやこみやと研修に参加している間に、とうとうかひり期生の後に付いて来たお花、^{こみやのせいか}とんぐりの中に真珠、ふうた妃エルーで見た時の驚きを子供達や大勢の方々に味わってほしいと自然への感心と感謝を込めて自然を大切に育て育んでほしいと思ひます。ドクちゃんこと西野頼子



パークレンジャー研修を終えて

——どの班で、何をしようかな？——

中島 種芳

11月29日の「研修ふりかえり」をもって 4月からの 延べ13回のパークレンジャー研修を終えた。半年以上の長丁場、しかも屋外での開催にも関わらず 雨にたたられる事もなく、又 個人的にも 一回位は何かとダブって休むかなと思いつつスタートしたが 皆勤であった。しかも昼食後の睡魔の誘惑にも負けることもなかった。終了証を戴いて「やれやれ！」との思いと同時に「楽しかったかな！」と云うのが 正直な感想である。

そうした思いも、研修チームの皆さんと事務局富田さんのお陰と お礼を申し上げます。研修チームの皆さん方は 永いパークレンジャー経験で培われた知識のみならず 色々調べられてそれぞれのテーマに即した形で 体系的に話をされ、バックボーンとしての知識の豊富さと共に 熱心さが感じ取れる研修でした。本当にありがとうございました。

さて、研修を終えてこれからがボランティア活動の開始、どこの園地で？何をやるか？

40年来の趣味である「登山」を70歳くらいまで楽しみ続けるために トレーニングの場所を探して「なるかわ園地」に行き着き、「なるかわ園地」でパークレンジャーの募集要項に巡り合った。その源点に立ち返って「なるかわ園地」で「ハイキング」をやる。研修の過程では イベントとしてクラフト、ネイチャーゲーム、自然観察と 色々自然の大切さ・豊かさを伝える方法・手段を学んだが 私には不器用なだけに 一番慣れ親しんだ「ハイキング」の類が 抵抗なく入って行けそう。

歳も老け、思考も硬く、ITやPCは苦手、ただ身体は幸いにして動くと言ふ人間ですが 先輩諸兄には 何卒よろしく願いいたします。

紙面が余りました。研修中 ほしだ園地ビトンの小屋そばの銀杏の木を見上げながら 話題になった事を 披露して終わりにします。

○府県・市町村の木・花

	木	花	鳥
大阪府	イチョウ	ウメ・サクラソウ	モズ
大阪市	サクラ	パンジー	—
箕面市	イロハモミジ	ササユリ	—
交野市	サクラ	ツツジ	キジ
四條畷市	クスノキ	サツキ	—
東大阪市	クスノキ	ウメ・キキョウ	—
八尾市	イチョウ	キク	—
千早赤阪村	クスノキ	ヤマユリ	—
泉南市	クスノキ	ウメ・サクラソウ	—
奈良県	スギ	ナラヤエザクラ	コマドリ
生駒市	イチイガシ	キク	—

研修をふりかえって

17期生 能町真実

友人に誘われ、「パークレンジャー」という言葉すら覚えていない状態で申込書に記入し、みどり公社にメールをしてからもうすぐ10ヶ月が経とうとしています。

はじめのうちは、「とりあえず参加しておこう」くらいの気持ちで研修に参加していたのですが、次第に楽しくなり、なんとか最後まで研修を続けることができました。

こんな僕が、研修を続けていくうちに感じたのは、「伝える」ことの難しさでした。まずは、相手に感じてもらうこと。その上で、自分の伝えたい内容を相手に伝えるわけですが、言葉が足りなかったり、独りよがりだったり・・・。

「伝える」って、単に知っていることを一方的に話すだけではなく、相手がいちじめて成り立つんだなああと、この歳になってようやく気がつきました。

研修を最後まで続けられたのも、自分なりに気づくことができたのも、これまで、熱心に指導して下さった研修スタッフのみなさん、一緒に研修を受けた同期生のみなさんのおかげです。本当にありがとうございました。

これから、こんな僕がレンジャーとしてうまくやっていけるのか非常に不安です・・・が、とにかくがんばってみますので、今後ともどうぞよろしくお願ひします！

私は去年の今頃星田へと移住してきました。

海外の旅より旅そのものに区切りがつきその後日本を沖縄より賑々としていたところ

山梨の田舎に一年ほど戻り奥秩父の山荘にてカフェ、レストランでアルバイトをしているところ星田へとつながりました。

これまでの海外のたびで地球を2、3周したと思う。

その間の出会いの中でまずは西オーストラリアでのオーガニックファーム体験。

私のいたファームにはオーストラリア中からアーティスト、ヒッピーたちが集まりそこが 自然の生活への自覚めとなった。

また10代の頃に探索して辿り着いたのはチベット、インド。

そして平和と対にある内戦中のアフガンの訪問。

その間にまたいろいろな人たちと出会ってきました。

やはりこうした旅の中から人々が平和に暮らすには人と自然が共存していくのが一番よいと感じてきた頃に

パークレンジャーのチラシが目にとまった。応募してみた今ここにいる。

1年の研修の中で今後の課題も多いですが武田さんの骨のあるお言葉、山崎さんのスマートな知識等

そして17期生の個性を心に留めて来年度へとつながったらよいなと感じます。

知るを楽しむ 学ぶを楽しむ 楽しむをつくる

シンプルでいてなかなか的に収まらないそのテーマにどれだけちかづくことが出来るか？

イベントへの参加等含めてゆっくりとそんなシンプルなものをつくっていただけると感じている頃です。

一方17期生の各方々へと散っていったレンジャーたちが来年度(今すでに)より

全体に力を轟かせることを楽しみにしています。

それでは私の卒業文を終わらせていただきます。

先輩レンジャー及びみどり公社のスタッフ様へ感謝を込めて

17期生 穂坂 義人

パークレンジャー研修のふりかえり

今年の2月に友人と金剛山に登った時、ちはや園地でボランティア募集のチラシが目にとまりました。

いったい何をするんだろう、どういう団体かな、と思いながら説明会に参加しましたが、いまいち分かりません。

はっきり分かったのは、任命式後の「ボランティアとレンジャー活動」での研修中に言われた「しょうもないミスをして全国で頑張っているボランティアの邪魔をするな」という一言です、少し恐くなりました。

研修は、楽しい時もあれば、当然の事ながらしんどい時もありました。楽しい時は、野外ゲームでのやり方です。大人でも楽しめるものもあることを知りました。

又研修生全員で寝転がって、虫の視線で下から見た樹木や空の色も印象に残りました。

救急法は、難しかったですが大したことだから、しっかり取り組んだつもりです。しかし三角巾の結び目は日頃の癖が出てしまいます、気をつけねば。

又、AEDは、以前に日赤の講習を受けた事はありませんでしたが、実際に手に取って操作をするのは初めてです。最近では、あちらこちらで見かけるようになりました、いざという時に使えるのかはいささか疑問ですが、聞きっぱなし講習とは違うものを感じました。

しんどかったのは、インタープリテーションとイベントの企画などです。

仕事の関係で、仕上げイベントにも参加できず、同期の方に負担をかけてしまいました。申し訳無いという思いもあったからです。

インタープリテーションでは、伝える事の難しさを感じました。

イベントの企画や実施では、何をしたらいいのか、何が目的なのか、分からないことだらけでしたが、みんなで頑張ったと思っています。

講師の、辛口批評は少しですが落ち込みました。

4月から始まって11月まで全13回の研修が終わりました。研修生のシールも外して一応はパークレンジャーの一員です。

しかし、まだまだ分からない事がいっぱいあります。

これからもどうぞ宜しくお願い致します。

ちはや班 松川淑子

研修を終えて

松本修子

4月に始まった研修もあっと言う間に終わり、振り返ると様々なことがありました。まずパークレンジャーがどういう活動しているのか、良く知らないまま参加した説明会。とりあえず応募用紙に思いを書いて送りました。説明会の参加者が80人程聞き、受かるはずがないと思いながら、通知を受け取った時は、（この先どんなことになるか分かりもせず）ただ単純に喜んでいました。

4月からの園地での研修は、見るもの、聞くもの、やること、初めてのことが多く、戸惑いと感動が入り混じっていました。

「インタープリテーション」「何をやるんやろう??」「?マーク」だらけで、臨んだ研修。課題に悪戦苦闘しながら、向かえた「インタープリテーションⅡ」では、事前に考えていったこととは、180度異なる発表となり、伝える人によって全然違うものになることの面白さと怖さを知りました。

この後、救急法や安全管理の研修を受け、1ヶ月半ほど間をおいての宿泊研修では、内容の重さに驚き、「こんなはずじゃなかった・・・」と心の片隅で呟いていました。

模擬イベント・仕上げイベントを経験してきましたが、知識も実力も未熟で、実習生のシールを外して、レンジャーとして活動してくることに、「ほんとに大丈夫？」と不安がいっぱいです。でも後には戻れません。研修で教えて頂いた事を基本に、これからもいろいろなことを楽しみながら学び、レンジャーとして成長していけたらなあと思っています。

研修を振り返って

向井 弘治

研修を半年余り受けてきましたが自分はどのように変わったのだろうか振り返ってみました。

以前は花が咲いていても「ああ咲いているなー」「綺麗だなー」とウォーキングするだけで通り過ぎてしまっていたけれど、今は図鑑を買っていろいろと調べようとするまでになりました。しかしよく似た木や花や葉があるとどれが正解なのか分からなくなるのです。結局変わっていないじゃないのだろうか自信がなくなりそうになるけれど、でも知りたいと興味を持って図鑑で調べるまでになっただけでも少しは進歩してきたように思います。

自分にとって一番の興味が持てたのは「救急法」です。

二十年ほど前に講習を受けた事がありましたが、かなり内容が変わっていて復習をしているという思いよりも新鮮な気持ちになりました。

これからは箕面班に所属して時間をかけて楽しみながらスキルアップをしていきたいと思います。

府民の森パークレンジャーとの出会い

府民の森パークレンジャー 17期生 諸留 文明

2008年2月22日(日)説明会二日目でした。

図書館の帰り際、立閑脇の棚で目が合ったのは、府民の森パークレンジャー ボランティア募集のチラシでした。(かわいいふくろうの目、可憐なカタクリの花)

自然が好きで「山に関わる仕事がしたい、間伐されないで荒れ果てた山を元気な山に戻す、そんな仕事に携わりたい」と思っていましたので、すぐに問い合わせをしました。

返事は、「公社での説明会に参加できるならいいですよ」うれしかったです。

説明会当日、下車駅を間違えてしまい、公社に道を教えてもらって、汗だくで公社に到着、しっかり印象を残してしまいました。

参加希望者数は、80名以上と聞いて、20/80の確率では到底選ばれないだろうと思いつつも応募しましたので、委嘱の通知が来たときは、びっくりしました。(今年はいい年だ)

4月5日任命式、「ボランティアとレンジャー活動」

任命式、新时期生含め86名 20歳台～60歳台まで年齢の幅が広い。

早速研修開始、最初の講師は「ボス」こと安田さん「ボランティアって何や、何すんねん、誰がすんねん、何のために」????

※ ボランティアには、責任があることを忘れないように肝に銘じました。

4月19日 「野外ゲームとコミュニケーション」子供に帰ったようで楽しかった。

5月10日、5月24日 両日とも仕事の都合で不参加ざんねん!!

6月7日、7月4日・12日 「救急法と安全管理」 パークレンジャーとしての責任を果たすためには、絶対覚えていなければいけないことです。

6月14日 「里山と府民の森(自然保護)」ふるさとを懐かしく思い出しました。

9月5日・6日 「イベントの企画と実施」1日目で企画・下見・資料づくりまで、2日目本番 きつつ 頭から湯気を出しながらみんなよく頑張りました。

10月24日 「仕上げイベント」自分のパートだけで精一杯でした、スタッフの皆さんお疲れ様でした。

11月15日 「森林整備」やっぱり自然の中で体を動かすと気持ちがいいですね。

11月29日 「研修のふりかえり」公社の皆さん、研修スタッフの皆さん、先輩レンジャーの皆さん、17期生の皆さんありがとうございました。

研修で学んだことを、思い返しながら「自然を楽しむ」をテーマにレンジャー活動を行っていこうと思っています。22年度もよろしくお願ひします。

2009 年研修を振り返り 締切り 12 月 14 日 公社必着

17期 山崎 智

「やっと終わったー」4 月から 11 月まで続いた研修。長いようで短いような 8 ヶ月でした。

自然保護団体や自然学校などの研修を経ている私は、およそ 1 年間実践の機会が殆どない状態で、今回の研修が資質を維持するために非常に良い復習の機会になりました。また、休みが少ない仕事に従事している身として、自然と接している事でストレス解放の時間でもあったようです。

私にとって大きな収穫は、過去に催しを企画する場合は、ごく少人数で行い今回のような多数で企画する機会が全くなく、その点において非常に有意義な時間を過ごせました。催しの内容を決める過程で他の研修生の意見を受止める事の大事さと、多数の意見から物事決定に持って行く為の難しさをあらためて感じました。今回の研修では意思決定に人数が多い場合はリーダーの存在が非常に大きいという事も実感しました。これから他の人達とのかかわりあいや現場でのインタープリテーションでもこの受止める事を大事にしてゆきたいと思います。

最後の実習研修では参考にすべく他の多くのメンバーのあり様を見たかったのですが、それが叶わなく残念でした。自らの実習では自分の思いから他が見えなくなっている自分に気づきました。緊張していたのか心に余裕がなかったのでしょうか。その場その場の状況を客観的に観察できる自分でありたいと思いました。これらを糧として園地に来られる方々に少しでも良かったと思っていただけるようなインタープリターを目指そうと思っています。

最後にこのような凝縮した研修内容と日程を提供していただいた研修チームとみどり公社の関係者の方々に感謝致します。ありがとうございました。

『 研修を終えて…。 』

17期 行平 暲子

私は、20代の頃に憧れ一歩も踏み出さずに諦めた「インタープリター」に挑戦したい思いからパークレンジャーへ応募しました。

しかし研修当初はどこかフワフワしている感じで、教えて頂いた事がなかなか心に沁み込んで来ませんでした。宿泊研修の模擬イベントを終えた時、ようやく自分の中で何かが変わり始めた感じがします。

その勢いで仕上げイベントのヘッドを引き受けてしまいました…。正直エライものを引き受けてしまったなあ～と後悔。ヘッドの重圧！？からか、私たちのイベントのテーマ「植物のタネとひろがり」に関する本を何冊も読み、インターネットを調べ、フィールドにはイベントまで毎週足を運びました。

でも「植物は何故タネを遠くに飛ばすのか？」一つをとっても本によって書き方がまちまち。挙句の果てには専門家の間でも理由が証明されていないとの事！松ぼっくりの動物の食痕についても書き方が色々。フィールドに行けば毎週植物の様子が変わるし、私の頭の中は混乱しました。イベントでもそういう所が上手く伝えられなかった気がします。

イベントを終え冷静に振り返った時、植物や動物の本当の気持ちは、どんなに調べても人間になんか分からないものだやっとな気がしました。その事を実感した時、目の前が少し広がったように思います。これからはそんな「動植物の不思議さや面白さ」を私なりの方法で楽しく伝えていけるようになりたいと思います。

研修期間中は多くの人に出会い、自然に触れました。仕上げイベントのヘッドはとても貴重な経験となりました。支えて下さった公社や研修スタッフの方々、17期生の皆さん、そしてたくさん勉強させてもらった自然へ感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

そしてこれからも宜しくお願いします。

レンジャー初心者心得

17期 吉田秀夫

なかなか最後までやり通せない悪い癖が出て、途中で放棄しそうになりながらも無事修了できたことに感謝しています。自分自身の課題がいろいろとわかり、プラスに転じるように努力したいものです。

研修チームのとてもキャラの濃い、だけど憎めない面々に大きな刺激を受け、どんどん積極的に挑戦する意欲をもらいました。わたしのモットーである「意気尽誠」(心意気を持って誠に尽くす)に近づく、ひとつの道筋が見えた気がします。

さらに、知識は相互に深め合うものだという班活動のメリットを、イベントの企画・運営で感じました。全てを一人で抱え込むことなく、「一人の力はみんなのために、みんなの力は一人のために」を実践すべく、まずは得意分野を持ち、皆さんから教えていただいて、やっていきたいです。

研修の中で、インタープリテーションと仕上げイベントは、これからの活動の大きな柱になりそうなので、みっちりやりたいものです。レンジャー活動の大きな動機づけとして、楽しさを得るために説明責任をとることは、実際難しいことでした。取り組み方が見えてこないうちは、がんばり方すらわかりませんでした。サポートがうれしかったのは、言うまでもありません。

笑顔で楽しく活動できるよう、その裏付けとなる自信につながる養分を蓄えていきたいです。よろしくお願いします。

H21年度パークレンジャー研修

月日	曜日	内容	対象	場所	講師
4月5日	日	任命式、必修研修「ボランティアとレンジャー活動」(新規)/班会議(在期)	全レンジャー	産業創造館	安田
4月19日	日	「野外ゲームとコミュニケーション」	新規生	むろいけ園地	西出
5月10日	日	「インタープリテーションⅠ 自然観察入門(自然の大切さを学ぶ)」	新規生	くろんど園地	武田
5月24日	日	「インタープリテーションⅡ 実践」	新規生	くろんど園地	武田
6月7日	日	必修研修「救急法Ⅰ」⇒「救急法Ⅱ(包帯法、運搬法)」	全レンジャー	らくらくセンターハウス	安田
6月14日	日	「里山と府民の森(自然保護)」	新規生	くろんど園地	安田
7月4日	土	必修研修「救急法Ⅲ」⇒「救急法Ⅰ(AED、CPR)」	全レンジャー	らくらくセンターハウス	安田
7月12日	日	必修研修「安全管理」	全レンジャー	ちはや園地 <small>(イイダマール)</small>	下釜、上口
9月5日	土	研修「イベントの企画と実施」	新規生	むろいけ園地	金崎
9月8日	日	研修「イベントの企画と実施」	新規生	むろいけ園地	金崎
10月24日	土	研修「仕上げイベントⅠ」 森のたんけんたい	新規生	むろいけ園地	—
10月25日	日	研修「仕上げイベントⅡ」 森の秘密	新規生	ほしだ園地	—
11月15日	日	研修「森林管理」	新規生	ほしだ園地	武田、森林整備班
11月29日	日	研修「研修のふりかえり」	新規生	大塚社会福祉指導センター	西出

いよいよ、ですね

4月から8か月の研修を終えられた17期生のみなさん、とりあえずお疲れさまでした。

所属班も決まり、これからが本活動となります。いよいよ、ですね。

研修はあくまで「府民の森パークレンジャー」として活動するための独自のプログラムであってその中に自然(動植物等)に関する知識的なものはあえて含んではいません。きつとそちらをメインに期待されていた方もいると思います。

植物・生き物の名前や知識などはこれからフィールドに出て自ら興味を持ち、「自然とのコミュニケーション」を深めていく上で身につけていくでしょう。

「これは〇〇」「あれは××」と与えられる知識ではなく、「これ何かな?」「あ、面白いな」といった自分の目線から近づいていくといいかな、と思います。

そして…自分が「面白い!」と思ったことは誰かに伝えたくありませんか?

インタープリテーションの際には「名前を教える」のではなく「あ、面白い!」「そうだったのか」というように「感じてもらうこと」「気付いてもらうこと」を大切にしたいです。

そのためには自分の感性も豊かにしたいし、どうやったら相手にも同じように感じてもらえるかを工夫するサービス精神というか心配りというか…そういったものも必要になってきますよね。

パークレンジャーは「人」と「自然」をつなぐパイプ役。

「自分」というフィルターを通してどのようにつなげていくか。

私もまだまだ悩みつつ、頑張っているところです。

パークレンジャーとしていろいろ体験し、学び、楽しく活動していきたいですね。これからもよろしくお願ひします。

『野外ゲームとコミュニケーション』

『研修のふりかえり』 担当

西出 明子

H21 年度基礎研修終了所感



武田 敏文

この度正式にパークレンジャーになられた 17 期の皆さん、8ヶ月に亘る基礎研修、お疲れ様でした。修了証を手になされてほっとされていることと思いますが、これで終わりではなく、今から皆さん方それぞれの新たな始まりです。これまでやって来たことは、レンジャー活動をするのに必要な基本の部分に過ぎません。これからも班活動をして行きながら、色々な知識や経験を深めていただきたいと思います。「森林の生態」や「植物や動物」といった自然の世界、人と自然をつなぐ「インタープリテーション」や、人と人をつなぐ「コミュニケーション」など。これらの知識や経験を深めて行くことによって、皆さんがこれからビジターに「自然の大切さ」の話をする時、より大きな説得力を持つことでしょう。

さて、これからそれぞれの園地班に分かれて活動される新レンジャーの皆さんに、僕が贈る言葉は、「とにかくやってみる」と言うことです。

あなたが、これから何かやろうとした時、
「今まで、そんなことやったことが無い」とか、「あれ心配、これ大変」と言う人に対して、「とにかくやらせてみて下さい」と、実行することです。新しいことが自分の好みだと言うだけでなく、それが全体のためになると思ったらやってみることで。本気になったら人は動きます。

あなたが、人から「今度何かをやって欲しい」と言われた時、
「そんなことやったことが無い」とか、「しんどくて大変」とか言う前に「とにかくやってみます」と、引き受けることです。「何かあったらどうしよう」と言う前に、「その時はどうしたら良いか」を考えて前に進むことです。

そして、先輩レンジャーに一言。

多様な考え方があることを認めましょう。そして新しいレンジャーが何かやる時、基本を押さえたら、あとは思い切って任せましょう。失敗するかも知れませんが、先輩ならリカバーできるはず。人は自ら失敗しないと自分のものにはできないものです。失敗は成長のもと。かつては自分運もそうであったように…。やる気を大切に、その人を生かすことで人は育ちます。

最後に、会社の皆さんに一言。

今年も新しいレンジャーが誕生しました。新しい人は新鮮な目で色々な提案をしてくれることと思います。ぶつかることがあるかも知れませんが、先ず傾聴をお願いします。そして、相手を尊重して言葉を尽くしてください。主宰者としての会社と、ボランティアとしてのレンジャーは車の両輪です。何れかが突っ走っても、ブレーキをかけても、前に進めません。お互い助け合って、バランスの取れた運転ができるようにして行きましょう。

歩こう

森の中をもっとあるきませんか。

研修中は各園地を歩く機会が多くありますが、研修を終えて班に入ってしまうとイベントに追われ、工作の材料集めのときだけや、拠点となる施設の周辺だけしか歩かなくなってしまうことが、よくあります。たまには、イベントとは関係なしに園地内をゆっくりと歩いてみて下さい。きっとたくさんの発見で、わくわくドキドキすることと思います。

あんまり人数が多くても歩きにくいけど、できることなら一人ではなく数人で歩いてみて下さい。一人よりも二人三人四人の目で見ると一人では発見できなかったものが見えてくることがあります。植物をよく知っている人と一緒に歩いて教えてもらうもよし、図鑑を持ち歩いて皆で調べあいながら歩くのもいい勉強になると思います。

春は花が一斉に咲き、緑が一日ごとに濃くなり

夏は多くの昆虫が活動し

秋は葉っぱが色とりどりに美しく変化し

冬は木々が葉を落とし森が明るくなる

そんな四季折々の変化が楽しめます。

森を歩くと、いろいろな発見や感動があります。いろんなことを見て、聞いて、触って、感じて、発見する。そんな一つひとつの出来事が、いいイベントや活動につながると思います。

私もいまだにMYフィールドのむろいけ園地を歩いていて「あれっ、初めてみるわ」「こんなところに！」なんてことだらけで恥ずかしい限りですが、こんな発見があるからレンジャー活動を飽きずに楽しめているのかもしれない。

皆さんも、せっかくの園地班制度ですからMY園地をいっぱい歩いてみませんか？

パークレンジャーがパークレンジャーの研修をしている理由

少し前のお話。

レンジャーが設立されてから年月が経ち、年齢層は広くなり、人数も増え、ボランティアが流行り、研修は減ってきた、そんな頃です。

当時は研修も無しに四月にレンジャーに任命されれば即イベントを実践していました。新しく入ったレンジャーは何をしていいかわからず、もちろん考え方もバラバラ、知識や技能も人によって大きな差がありました。

それこそ、『喜んでもらうために手作品などをプレゼント』『とにかく人が集めれば成功』『安全管理といった言葉さえも知らない』『知識がないからできない』『今はまだ無理と、ずっと無理』『イベントの当日だけ参加』『スタッフが足りない足りないとの口癖』『私たちボランティアやったりするのに』『会社が悪いから』…と、こんな人が多くなってきました。

目的と手段を間違え、本来の思いもどこかへ消え去り、レンジャーもバラバラで、何かおかしくなっていました。

このままではいけない、なんとかしなければ…そんな思いから、この研修が生まれました。ただ、研修するにも予算はありません。いっそのこと他所から肩書きのある講師を呼んでくるのではなく、「レンジャーや園地のことはレンジャー自身が一番良くわかっている」、それならば「レンジャーによるレンジャーの研修があってもいいのではないか」ということになりました。

そこで、どんな研修をするのが一番良いのかとスタッフで考え、次の内容にたどり着きました。

- ・活動は仲間作りから(同期の絆を強める)
- ・レンジャー活動の方向性の統一(一人ひとり様々な考え方も、同じ方向を見て歩む)
- ・アウトプットできる人材育成(自分の為の活動ではなく、ビジターありきの考え)
- ・インタープリテーションを知る(活動手法としての理解)

さらにわかりやすく

- ・『自然の大切さを伝える活動』
- ・『1人の100歩より、100人の1歩』という言葉掲げました。

以上がこの研修でのスタッフ側の思いです。この8ヶ月研修を受講してきた新期生の皆様、私たちの思いは正しく伝わったでしょうか？

研修スタッフより

編集後記 ★

今回「研修のふりかえり」を

担当したこともあり、個人でどのようにふりかえりか考えを
もらうか。このIPWSへの原稿という形につなげてみました。
在期のレンジャーには入たばかりのフレッシュな気持ちで
よびおこすものにもなるとおもいます。

みなさん!! 編集・製本へのご協力もよろしくね!

西出
Shitaku

新期の皆さんは、

がんばって勉強し修了し、またスタートに立つわけです。

これから先で どう働くかは あなた次第です。

在期の皆さんは、

自分たちが研修生だった時のことを思い出して下さい。

by かみごま

17期のかみごま、おつかい様でした。

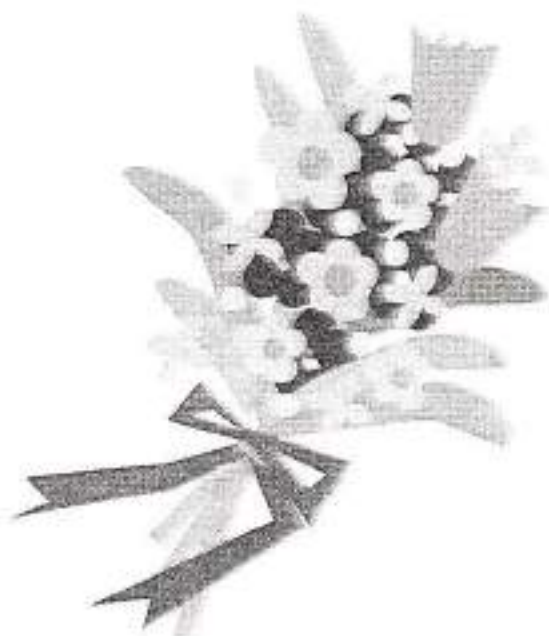
今回又も!! 皆様と顔も合いませんが、研修チーム

としてIPWSの編集に来られ、今度はイベントなどで

お会いするのを楽しみにしています。

by こにし

Congratulations!



2009.12.17発行